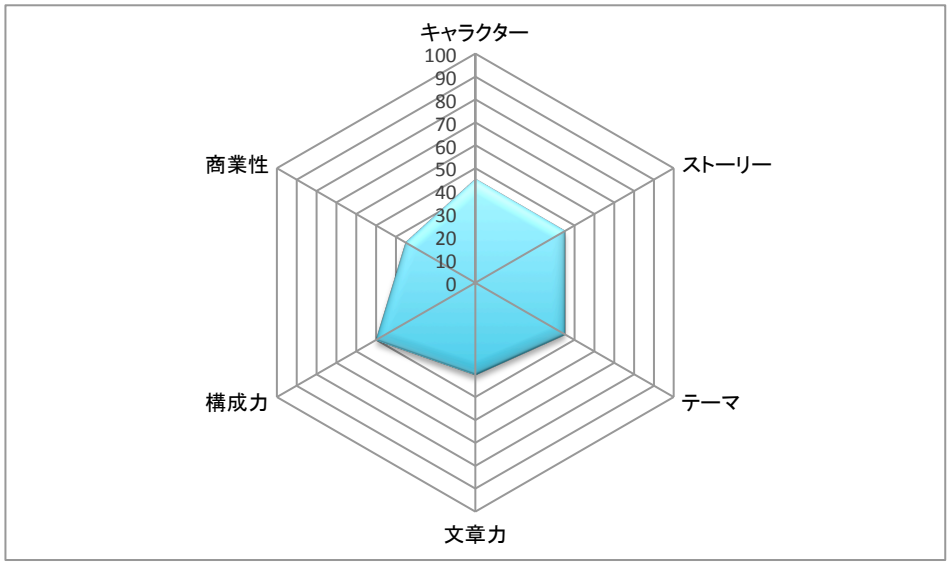
第1回　ライトノベル作法研究所主催　大夏祭り大会　選評評価シート

作品名：「そうしてぼくは世界を救う」　　テーマ：「人間なのに、神様な美少女」

キャラクター	ストーリー	テーマ(設定)
45	45	45

文章力	構成力	商業性
40	50	35



・見受けられる基礎的な問題点

	・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
	・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
	・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
	・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
	・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がりに欠ける
	・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
	・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
●	・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
	・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
	・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
	・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
	・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
	・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
	・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
●	・「この作品の最大の魅力はこれ！」というものがない

・総評（もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話）

・主人公が初対面の相手に必ず嫌われるという設定は、正直「悪癖」という説明だけでは読み手側からすると物語のための設定感が抜けきっておらず今一感情移入もしにくくなっている。はるか昔の子どもの頃はまだ人に普通に好かれていたような時代があったとして、主人公は元々明るい人間だったという過去描写をどこかに挟めば、嫌われるようになった今は、「――苛つくんだよッ。お前が嫌いなんだよっ。許せねえんだよ！（略） ふざけんなよっ、このくそったれ！」といった感情的な発言や行動をとるようになったという背景にも説得力が増されてより分かり易い作品となったのではないか。
・個人的には、夕陽というワードを最初に出しておいてラストに再び夕陽を出して来る構成が巧いと感じた。
・やはり最大の問題は「読み手にとっての最大の魅力は何か」という点が不明瞭であるという点であるように感じられる。一般的に暗い話の魅力は「感動」や「泣ける」といった点に置かれることが多いので、ただネガティブな発言が並べられた作品であると読んでいる側としては同じくネガティブな気持ちになるだけで「読んで良かった」という気持ちにはなりにくい(もしこの世に生まれてから今迄本当に初対面で嫌われ続けた人がいたならばそのような人には受けるかもしれないが、恐らくほぼいないに等しい人数だと思われる……)。
・「人間なのに神様な美少女」とあるが、結局最期まで夕陽ちゃんについては名前も種族(人間か神かそれ以外か的な意味合い)もよく分からなかったため、もう少し説明が欲しかった。

合計加点ポイント 0

総得点：　260 / 600

B方式総合得点：　11267 点